

## 平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果について

教学指導課

- 小学校については、国語A・Bは全国平均を1ポイント上回り、良好な結果となりました。算数Aは全国平均を1ポイント下回り、経年で見ても、下降している傾向が見られます。
- 中学校については、国語Aと数学Bは全国平均と同程度となりました。特に数学Bは、経年で見ると全国平均との差が、縮小している傾向が見られます。
- 平成25年度の小学生が中学3年生として調査を受けたことを考えると、いずれの科目においても、全国平均と比べて下降している傾向が見られます。中学校における学習指導において、さらに充実した取組を進めていくことが必要と考えています。
- 今後は、設問ごとの状況、質問紙調査の結果及び各市町村、各学校の実態をもとに分析を進めるとともに、学力向上外部検証委員会を設置して、施策の検証も含めて考察し、来年度以降の施策の立案に生かしてまいります。

### 1 実施状況

| 学 校   | 実施学校数           | 児童（小6）・生徒（中3）数 |
|-------|-----------------|----------------|
| 公立小学校 | 363校（内特別支援学校3校） | 18,004人        |
| 公立中学校 | 188校（内特別支援学校4校） | 18,464人        |

※ 児童・生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

### 2 長野県と全国の前平均正答率（%）の比較（公立）

| 学 校   | 年度<br>教科 | 平成 28 年度    |           | 平成 27 年度    |           | 平成 26 年度    |           | 平成 25 年度    |           |
|-------|----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|
|       |          | 長野県<br>(全国) | 全国と<br>の差 | 長野県<br>(全国) | 全国と<br>の差 | 長野県<br>(全国) | 全国と<br>の差 | 長野県<br>(全国) | 全国と<br>の差 |
| 小 学 校 | 国語<br>A  | 74<br>(73)  | +1        | 70<br>(70)  | 0         | 73<br>(73)  | 0         | 64<br>(63)  | +1        |
|       | 国語<br>B  | 59<br>(58)  | +1        | 66<br>(65)  | +1        | 57<br>(56)  | +1        | 50<br>(49)  | +1        |
|       | 算数<br>A  | 77<br>(78)  | -1        | 75<br>(75)  | 0         | 79<br>(78)  | +1        | 78<br>(77)  | +1        |
|       | 算数<br>B  | 47<br>(47)  | 0         | 45<br>(45)  | 0         | 59<br>(58)  | +1        | 60<br>(58)  | +2        |
| 中 学 校 | 国語<br>A  | 76<br>(76)  | 0         | 76<br>(76)  | 0         | 80<br>(79)  | +1        | 77<br>(76)  | +1        |
|       | 国語<br>B  | 66<br>(67)  | -1        | 65<br>(66)  | -1        | 49<br>(51)  | -2        | 66<br>(67)  | -1        |
|       | 数学<br>A  | 61<br>(62)  | -1        | 64<br>(64)  | 0         | 67<br>(67)  | 0         | 62<br>(64)  | -2        |
|       | 数学<br>B  | 44<br>(44)  | 0         | 41<br>(42)  | -1        | 58<br>(60)  | -2        | 40<br>(42)  | -2        |

※学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、文部科学省と同じように、平均正答率については小数点以下を四捨五入した結果を示しています。

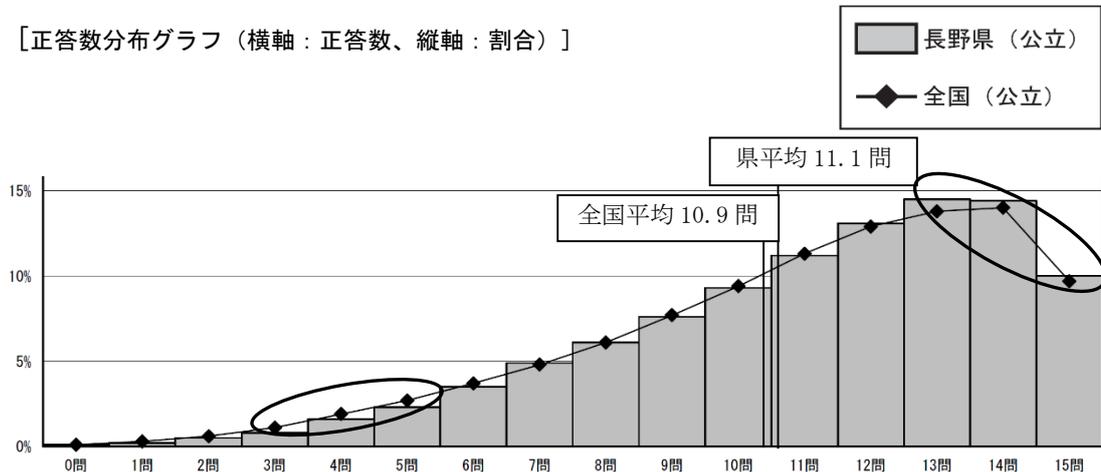
### 3 長野県と全国（公立）との正答数分布グラフの比較

[小学校]

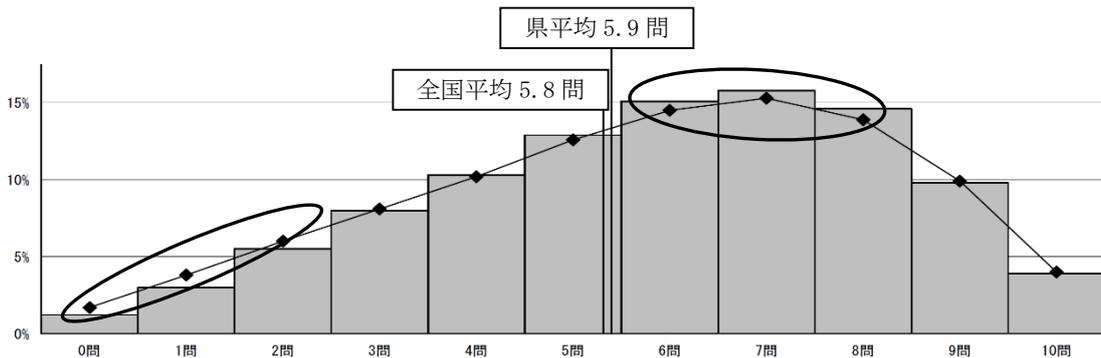
どの教科・科目も正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向である。国語Aでは、3問から5問の児童の割合がやや低く、13問から15問の児童の割合がやや多くなっている。国語Bでは、0問から2問の児童の割合がやや低く、6問から8問の児童の割合がやや多くなっている。算数Aでは、全問正答（16問）の児童の割合がやや少なく、13問、14問の児童の割合がやや多くなっている。

【正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）】

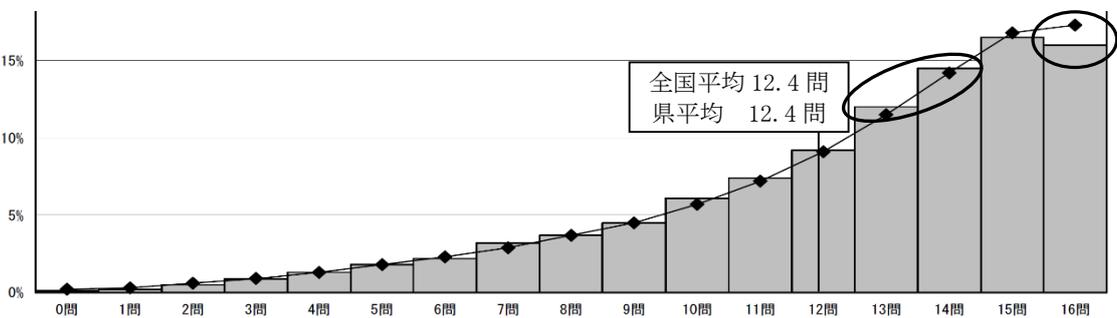
【国語A】



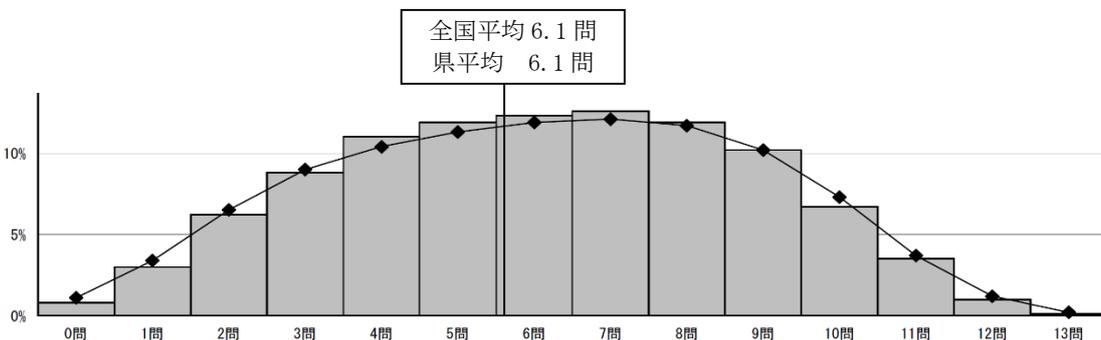
【国語B】



【算数A】



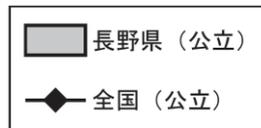
【算数B】



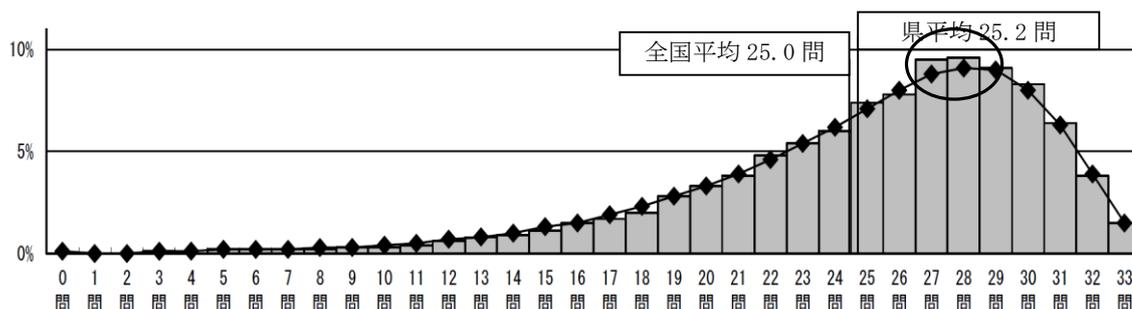
[中学校]

正答数の分布は、全国とほぼ同様の傾向である。国語Aでは、正答数が27問、28問の生徒の割合がやや多い。数学Aでは、正答数が31問から35問の生徒の割合がやや少なく、15問から17問の生徒の割合がやや多くなっている。数学Bでは、正答数が11問から13問の生徒の割合が少なくなっている。

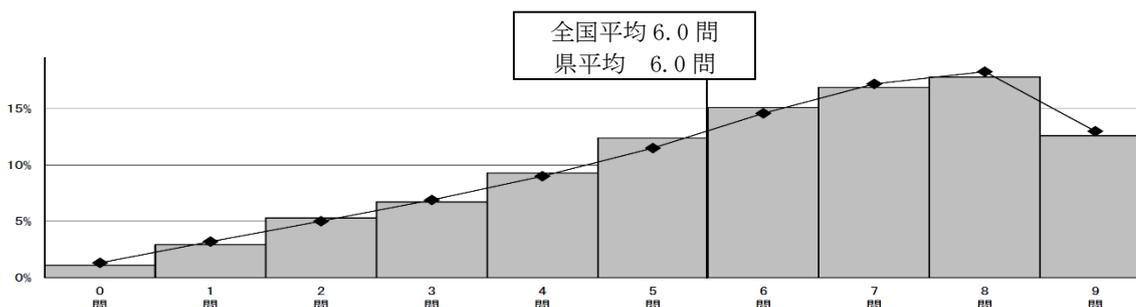
[正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)]



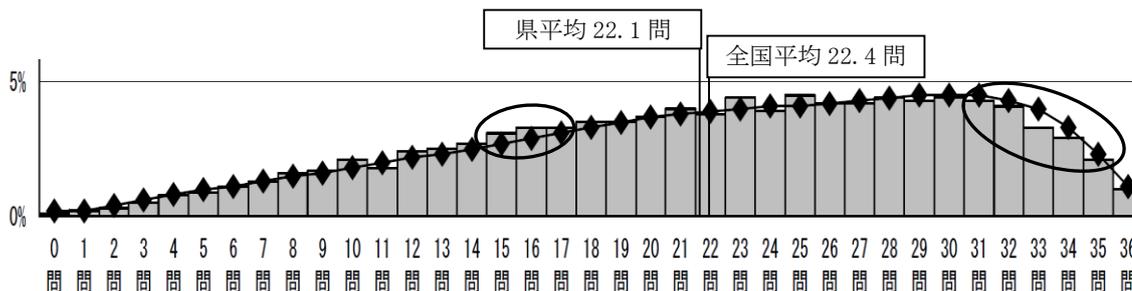
【国語A】



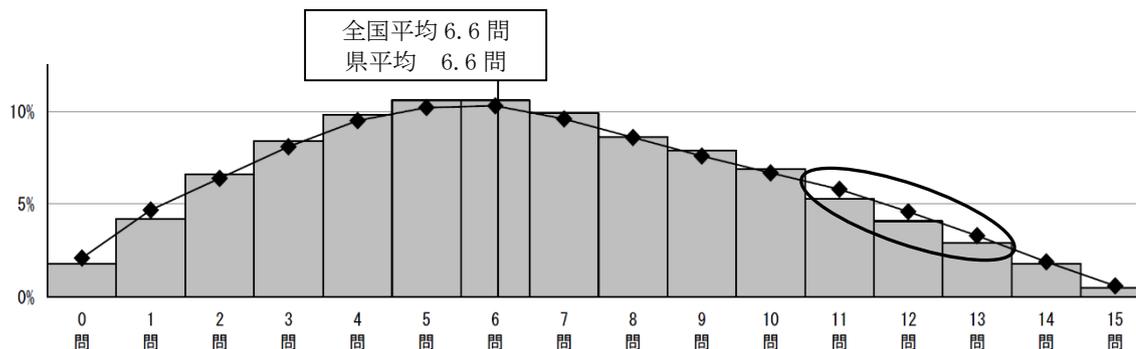
【国語B】



【数学A】



【数学B】



〔分布に着目した経年の状況〕

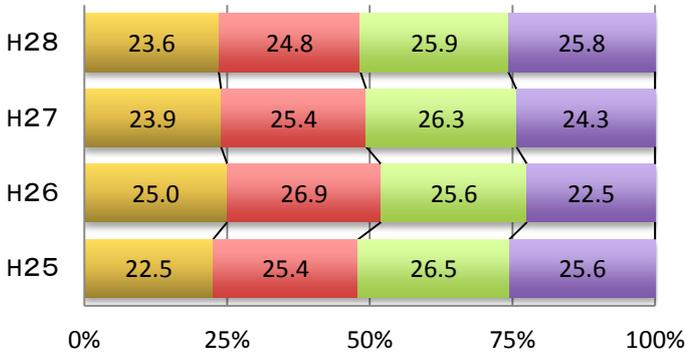
※全国を受検者を正答数の多い順に並べ、上位から25%ずつ4分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4等分となるよう補正)し、それぞれの区分をⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳとした上で、各区分に入る長野県の児童生徒の割合を求めたもの。

【小学校】

【中学校】

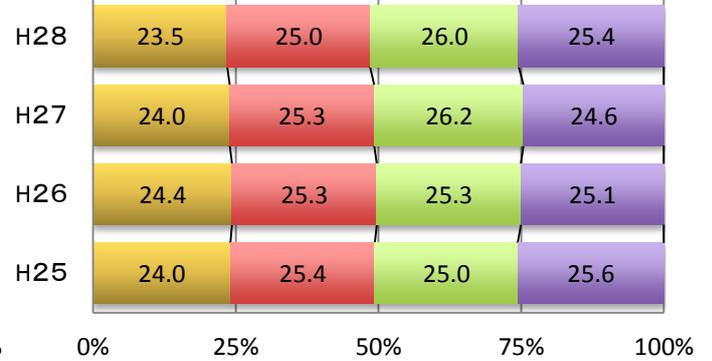
小国語A

■Ⅳ ■Ⅲ ■Ⅱ ■Ⅰ



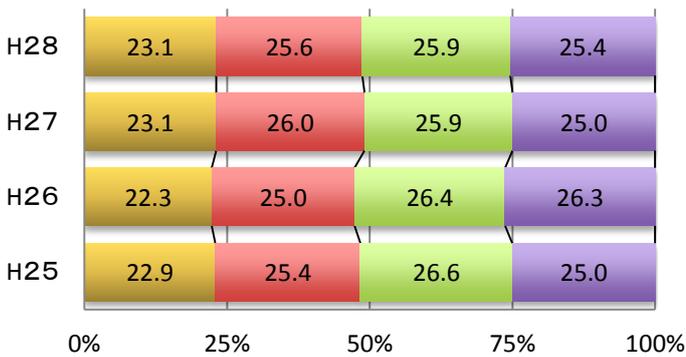
中国語A

■Ⅳ ■Ⅲ ■Ⅱ ■Ⅰ



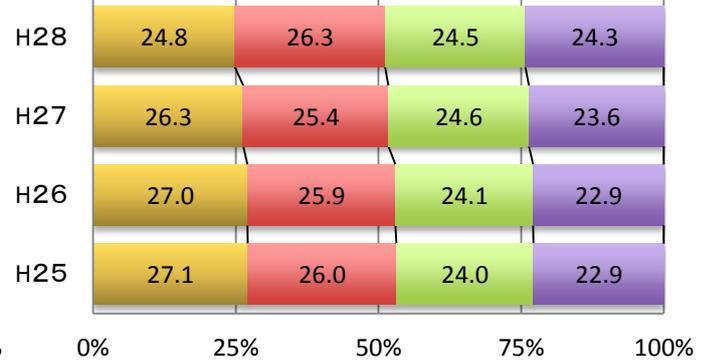
小国語B

■Ⅳ ■Ⅲ ■Ⅱ ■Ⅰ



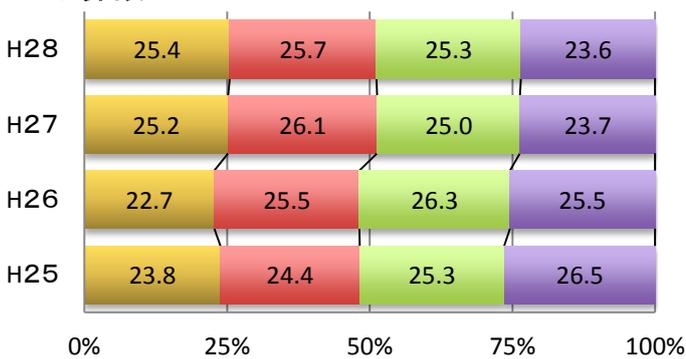
中国語B

■Ⅳ ■Ⅲ ■Ⅱ ■Ⅰ



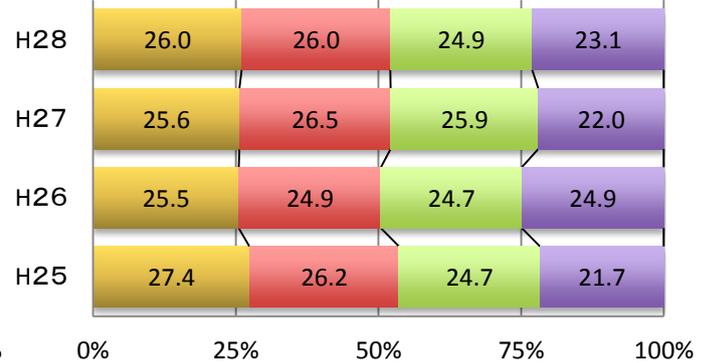
小算数A

■Ⅳ ■Ⅲ ■Ⅱ ■Ⅰ



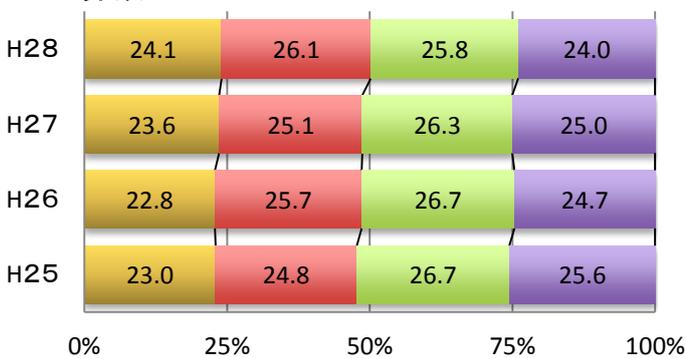
中数学A

■Ⅳ ■Ⅲ ■Ⅱ ■Ⅰ



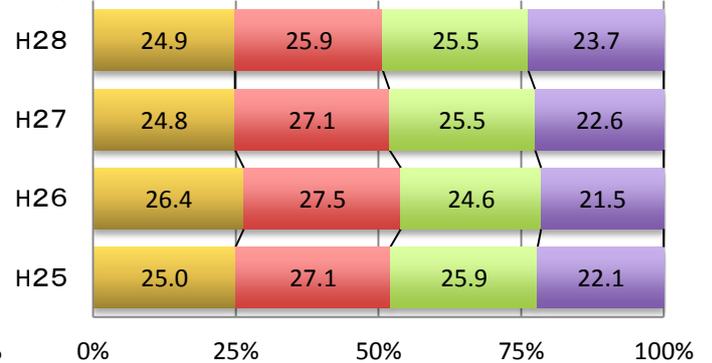
小算数B

■Ⅳ ■Ⅲ ■Ⅱ ■Ⅰ



中数学B

■Ⅳ ■Ⅲ ■Ⅱ ■Ⅰ



#### 4 質問紙調査の回答状況

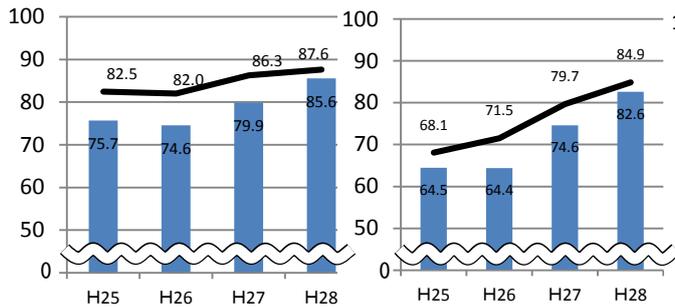
目標を示すことや振り返る活動、話し合う活動など、「授業がもっとよくなる3観点」にかかわる項目に対しては、全般的に肯定的な回答が増加しており、児童生徒質問紙と学校質問紙の差も縮小する傾向にある。計画を立てて家庭学習に取り組む割合は伸び悩んでいる。学校ボランティアの仕組みによるかかわりは、増加している。

（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答）

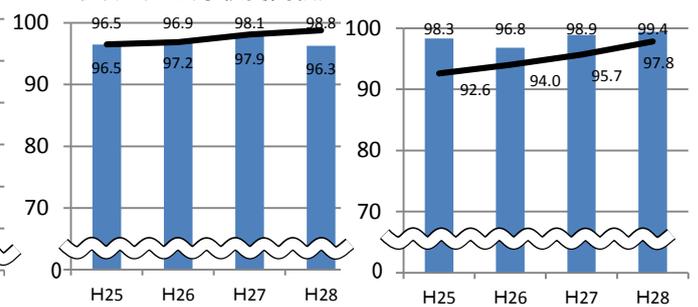
《左:小学校 右:中学校》

長野県  
全国

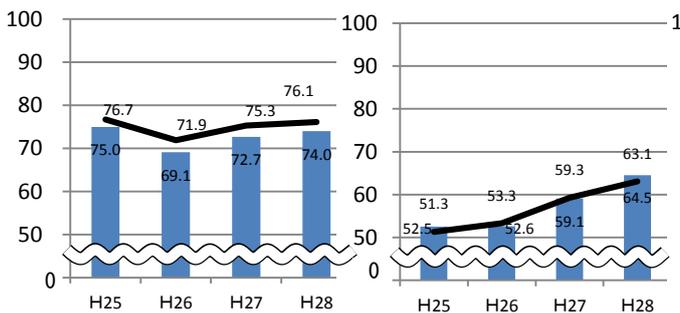
①授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う (児童生徒質問紙)



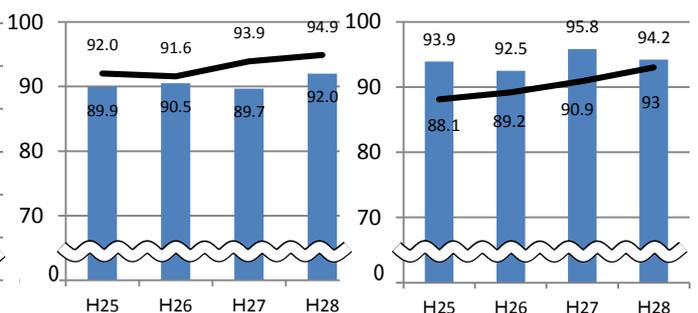
②授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れた(学校質問紙)



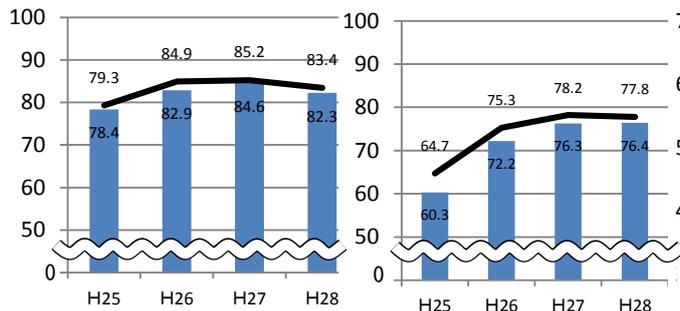
③授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う (児童生徒質問紙)



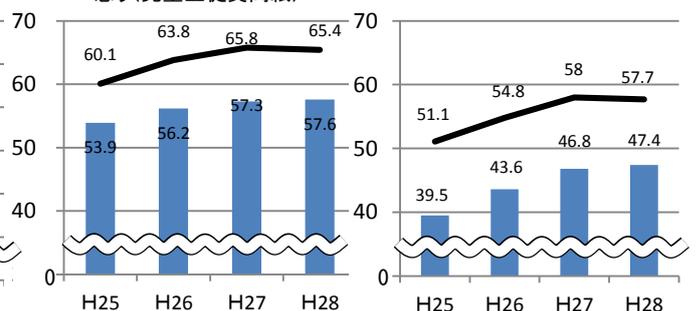
④授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた(学校質問紙)



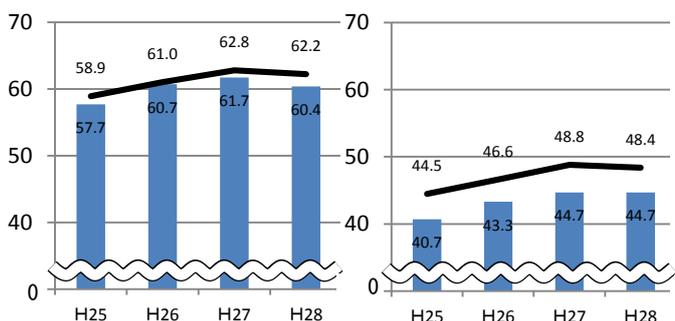
⑤授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う(児童生徒質問紙)



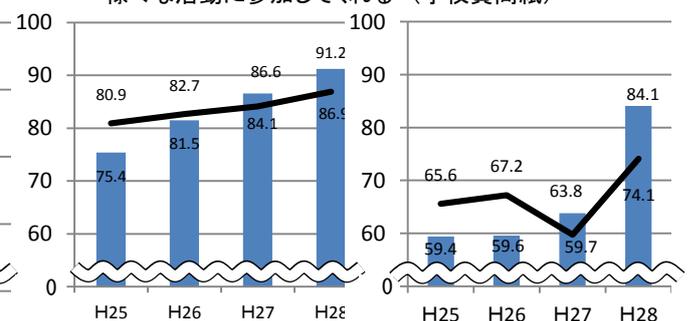
⑥「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んだと思う(児童生徒質問紙)



⑦家で、自分で計画を立てて勉強をしている (児童生徒質問紙)



⑧学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者等が様々な活動に参加してくれる (学校質問紙)



## 5 今後の取組

### (1) H28 年度後半の取組

#### ① 学力向上ミーティングの実施（9月下旬～10月下旬）

- ・全国学力・学習状況調査及びP調査について、各学校における結果分析や改善等を進めるために、教育事務所ごとに各学校の教頭・研究主任等を対象に研修会を実施

#### ② 「学力向上フォーラムながの」の開催（H29年1月10日 長野市若里市民文化ホール）

- ・県内全小中学校及び市町村教育委員会、保護者、地域が一体となって、長野県の児童生徒の学力向上を目指す機運を高める

#### ③ 学力向上に関わる学校の取組に対する支援

- ・学力向上に関わる非常勤講師配置校20校の結果を分析し、学力向上加配の有効性について検証
- ・全国学力・学習状況調査や県独自の実態調査を組み込んだ、各学校における年間の学力向上サイクルを再構築

#### ④ 市町村教育委員会との連携

- ・希望する市町村教育委員会を訪問し、結果分析のサポートを行うとともに、市町村教育委員会がそれぞれの課題を明確にし、改善に向けた取組が進むよう支援

#### ⑤ 全国学力・学習状況調査の適切な取組の推進

- ・各学校において、数値データの上昇のみを目的とした取組ではなく、調査の趣旨・目的に沿った実施がなされるように、調査結果を授業改善や研究につなげていけるよう、学力向上担当主事を中心に支援
- ・各校の学力向上サイクルの中に全国学力・学習状況調査を組み込めるように、平成29年度実施予定の全国学力・学習状況調査において、各校に早期採点の取組を促す

### (2) 来年度以降の施策に生かすための取組

#### ① 学力向上外部検証委員会の設置

- ・学識経験者（5名）、市町村教育委員会（1名）、保護者（2名）、学校関係者（4名）で構成する検証委員会を設置し、学力向上のための県教委の取組についての評価と改善の方向を検討

#### ② 学力向上外部検証委員会の提言を受けた施策の立案

《外部検証委員会名簿》

| 区分       | 氏名    | 所属等                     |
|----------|-------|-------------------------|
| 学識経験者    | 宮崎 樹夫 | 信州大学学術研究院教育学系 教授        |
|          | 西 一夫  | 信州大学学術研究院教育学系 教授        |
|          | 小口 祐一 | 茨城大学教育学部 教授             |
|          | 齋藤 嘉克 | 学校法人 信学会 教育振興部 学習企画課 課長 |
|          | 藤原 正賢 | 慶応義塾大学総合政策学部（屋代高校卒）     |
| 市町村教育委員会 | 澤井 淳  | 飯島町教育委員会教育長             |
| 校長       | 松木 智子 | 東御市立滋野小学校 校長            |
|          | 熊谷邦千加 | 飯田市立飯田東中学校 校長           |
| 教員       | 桂本久美子 | 須坂市立小山小学校 教諭(数学)        |
|          | 富山 貴子 | 上田市第二中学校 教諭(英語)         |
| PTA      | 黒岩 裕子 | 高山村立高山小学校PTA            |
|          | 山本 典子 | 長野市立古牧小学校PTA            |